



2023年3月8日発行  
公益財団法人とちぎYMCA  
〒320-0041  
宇都宮市松原2-7-42  
Tel 028-624-2546  
Fax 028-624-2489  
www.tochigiyymca.org  
発行人 / 塩澤 達俊  
編集人 / 公益財団法人とちぎYMCA

# YMCA News



## 台湾・南投YMCAのパートナーシップ、の絆をこれからも

表紙の写真から：とちぎY野外クラブ（幼児）にて。  
大好きなリーダーのお膝は常に取り合いです。

南投YMCAと和歌山YMCAは1987年頃、在日本YMCA同盟牽線下、双方展開交流、双方當時都是中小型規模の青年會、服務理念和地理位置接近、1989年9月南投YMCA派遣朱德華幹事（目前是南投YMCA總幹事）前往和歌山YMCA一個月實習、當時和歌山YMCA總幹事は山田公平先生、之後、山田總幹事並率領一批幼稚園老師和幹事來南投訪問交流、但1991年、當時南投YMCA經營狀況不佳、財務陷入困境、接受台灣全協輔導、國際交流暫停、在1997年再度重新出發後、持續和和歌山YMCA開展人員互訪交流、1999年9月21日、南投縣發生大地震、災情慘重、當時日本同盟和和歌山YMCA對本會伸出援手、和歌山YMCA並對本會捐款及派遣同工參與救災工作、因為921大地震、對南投YMCA可說是因禍得福、重建工作在上帝奇妙帶領下、讓南投青年會事工轉型至社會服務及老人事工、奠定後來發展長照2.0事工之基礎、2011東日本大震災導致海嘯災情傷亡慘重、本會立即響應救災捐款、透過和歌山YMCA救災事工協助災區重建。

由於和歌山YMCA在老人介護事工經營績效卓著、近10年來、本會幾乎定期都派同工前往學習、由於台灣已邁入高齡社會、長照事工成為台灣政府重大推動項目、本會老人事工也擴充服務至14個項目、如日間照顧、居家服務、老人送餐、樂齡活力中心等；本會也和和歌山YMCA合作辦理國際交流研討會、如2006台日老人照顧實務經驗分享國際比較研討會、2016年台日照顧預防國際研討會等、從2015年起、也同步開展與南開科大老人照顧系青年學生到和歌山YMCA暑假實習迄今、可說雙方交流頻繁、日益密切。

透過以上雙方長期之發展交流、已經過36年、彼此早已建立深厚之情誼、期待能持續擴展永續、服務社區做美好之見證。

南投YMCA總幹事 朱德華

南投YMCAととちぎYMCAは1987年頃に日本YMCA同盟の仲介によって2つのYMCAの交流が始まりました。どちらのYMCAも当時は中小規模なYMCAであり、ミッション的にも地理的にもとても近く、1989年9月に南投YMCAから朱德華幹事（現総幹事）が研修としてとちぎYMCAに1ヶ月間滞在しました。その後、当時のとちぎYMCA総幹事である山田公平さん（現社会福祉法人とちぎYMCA福祉会理事）がさくらんぼ幼稚園の教職員とスタッフを引率し南投YMCAに訪問され、交流しました。1991年頃、当時の

南投YMCAは経営状況が良くない状態で、財政難に陥り、台湾YMCA全国協会によるサポートを受けることになりました。国際交流も暫く停まっていた状態でしたが、1997年に南投YMCAが再出発した後、とちぎYMCAとのスタッフ相互交流を再開しました。1999年9月21日に南投縣において発生した大地震（921大地震）は、大きな被害を受け、日本YMCA同盟ととちぎYMCAは南投YMCAに手を差し伸べてくださり、とちぎYMCAから支援募金を頂いたり、災害支援スタッフを派遣したりしてくださいました。921大地震は南投YMCAにとっては災い転じて福となすようなもので、神様のもとで復興支援を行う中、南投YMCAは現在行っている社会サービス事業と高齢者事業に事業転換をするきっかけとなり、後の長照2.0（高齢者ケアサービス）の基礎となる事業を行っていきました。2011年の東日本大震災がもたらした津波は多くの死傷者をもたらし、南投YMCAはすぐに緊急支援募金を呼びかけ、災害支援活動と被災地復興のためにとちぎYMCAに寄付を行いました。

台湾は既に高齢化社会に入り、台湾政府は高齢者福祉事業の推進を図りました。南投YMCAの高齢者福祉事業はデイサービスや居宅サービス、配食サービス、デイサービスセンター等、14もの事業を行っています。とちぎYMCAの高齢者福祉事業が著しく発展しており、この10年間に於いて南投YMCAはほぼ定期的に職員を研修としてとちぎYMCAに派遣しています。また、とちぎYMCAと共同で国際交流セミナーを企画し、2006年の台日介護実務経験共有・国際比較セミナーや2016年の台日介護予防国際セミナーを開催しました。

2015年より、南開科技大学介護福祉課の学生がとちぎYMCAにて夏休みの実習を行うなど、頻りに交流を互いに行うようになり、緊密な関係となりました。

南投YMCAととちぎYMCAとの交流は36年が経ち、互いにとても深い友情を築いており、今後も未永く発展し、コミュニティがよくなっていくために貢献できればと願っています。

南投YMCA 総幹事 朱德華  
(訳：荒井 浩元)



写真：南投YMCA朱德華総幹事が初めてとちぎYMCAに訪問し、1ヶ月間の研修を行った時の写真

とちぎYMCAの使命。 ~みつかる。つながる。よくなっていく。~

### 2022年度とちぎYMCA年間聖句

何も思い煩わないで、あらゆるばあいに、感謝をもってささげる祈りと願いによって、あなたがたの願い事を神に知っていただきなさい。そうすれば、人のすべての考えにまさる神の平安が、あなたがたの心と思いをキリスト・イエスにあって守ってくれます。  
(ピリピ人への手紙 4章6節)



# 認定こども園 さくらんぼ幼稚園 「2月のご報告」

## ▽節分・豆まき



今年も遠くの山から赤鬼と青鬼がさくらんぼ幼稚園にやってきました。この日は朝から晴れていたのに、突然の風の音!どこからともなく聞こえてくる風の音で子どもたちは全てを悟り豆をまく準備をします。臨戦態勢で待ち構えていると、いよいよ鬼が登場です。

恐怖におびえながら必死に豆をまく子、先生の後ろに隠れる子と様々でしたがクラスみんなで声を合わせて「鬼は外」と叫ぶと今まで暴れていた鬼は不思議なほどに静かになり逃げて行きました。友だちとの力と心を合わせると勇気100%でした。



## ▽発表会

例年 12 月にクリスマス会として子どもたちの劇などを見ていただいておりますが、今年度は 11 月に新型コロナウイルスの第8波の影響を受けて練習ができず延期となり、3 学期に予定していました保育参観を発表会として保護者の皆さんに見ていただくことになりました。子どもたち楽しみながら練習に励み当日を迎えます。

予定を変更せざるを得ない状況におきましても、保護者の皆様のご理解とご協力をいただき、職員一同感謝しております。ありがとうございました。

本澤 利香

# 子どもの家だより～ 昭和子ども家(わんぱくくらぶ) 「今年一年を振り返って」



2月3日、今年もわんぱくくらぶでは無病息災を願って節分の日にイワシを焼いてその煙で邪気を払い、豆をまいてわんぱくくらぶ前に登場した赤鬼・青鬼を皆で退治しました。節分が終わると厳しかった寒さも和らいできて春の兆しを感じることも多くなりました。今年一年を振り返ると、一年生歓迎会に始まり夏のプール遠足、クリスマス会、運動会、ボーリング大会保護者会主催の親睦会と秋のバス遠足など去年までと比べて多くの行事を行え子どもたちの笑顔をたくさん見ることができてとても嬉しい一年でした。陰ながら支えて下さっている地域の皆様、保護者の皆様、関係者の皆様には感謝の念に堪えません。3月にも保護者会主催の班長さんお疲れ様会を行いそれで今年度の大きな行事は終了です。3月16日の卒業式には6年間通った4名の6年生たちが卒業すると、いよいよ新一年生たちがやってきます。新しい仲間を迎える準備をしつつ、皆で春が来るのを待ちわびています。



主任支援員 宮本 幸子

# 宇都宮市青少年活動センター トライ東

## 「トライ東にて節分イベントが行われました」

2月3日は節分の日です。トライ東では本館ロビーで遊んでいた小学生のお友だちと一緒に、児童遊園にて節分サプライズイベントを行いました。

やわらかいボールを豆に見立て、ボールあて形式で実施しました。

お友だちは「楽しそう」と言って意気揚々と外に出て行き、準備運動を行い、イベントが始まると、勢い良くボールを投げ、鬼を圧倒していました。イベントが終わると「楽しかった」や「もうちょっとやりたかった」などと参加者同士で話している様子が見受けられました。また、あそびの家では「豆まきしよう」というイベントが行われ、赤鬼と青鬼がやってきました。



今回のイベントには1～3歳のお友だちが参加しており、中には鬼だと分かる年齢で、泣いてしまったり、逃げてしまったりするお友だちや、まだ鬼がどういったものかわからないお友だちはきょんとしていました。

ですが、しっかりと鬼に豆を投げており、怖がりながらも頑張っている姿が多く見受けられました。

こうしたイベントでは普段の生活では見られない子どもたちの様々な表情や姿を見ることができ、新しい発見と子どもたちへの理解もより一層深まります。

今後もこうした季節のイベントを地域の皆さまと共に楽しく開催して参ります。

# ようとう保育園

## 「節分」



楽しみにしている子や、「まめまき」の歌の練習が始まり、「鬼くるの?」と少し緊張気味の子など様々な気持ちのなかで迎えた「豆まき会」が2年ぶりに行われました。

「心の中にいる鬼(泣き虫鬼など)を退治しよう!」というテーマの基、各々が倒したい鬼を考えながら鬼退治をしました。集会では、各クラスの制作物の紹介や豆知識を交えたクイズを行ったり、「まめまき」の歌を歌ったりと節分の行事を楽しみながら学ぶことができました。

制作物の紹介では、「〇〇を作りました!」「〇〇が難しかった」とみんなの前で上手に発表する姿はとてもたくましかったです。また、鬼が来ないように

飾る「ヒイラギイワシ」のクイズでは実物を用意し、一人ひとりにヒイラギの葉を触ってもらったり、イワシのにおいを嗅いでもらう時間を作ることで「くさー!」「チクチクする!」と様々な声を聞くことができました。

そして、その後の豆まきでは、泣き虫鬼や好き嫌い鬼などのカードをぶら下げた鬼がいよいよ保育室に登場。鬼に向けて新聞紙で作った豆を投げた後にはなんと!幸せを呼ぶ「福の神」が登場。さらに、年長組



では自分たちで作った鬼のお面をかぶり、迫りくる鬼を待ち構える姿に鬼もビックリの様子でした。中には鬼の登場に驚いて泣き出す子もいましたが、保育士と一緒に倒そうとする勇敢な姿も見ることができました。倒した後は「やった!」「やっつけたぞ～」と嬉しそうな声も聞こえてきました。節分後も鬼をやっつけた達成感から、進級に向け、自信や意欲にあふれた生活が続いています。

担当 阿久津 真里

# 特別養護老人ホーム マイホームきよはら

## 「たこ焼きパーティー」



春寒ようやくゆるみ始めたこのころ、皆さまお変わりなくお過ごしでしょうか。2月と言えば節分ですね。豆まきはしましたか?今年も去年よりも気合の入った鬼がやってきました。入所者の皆様は鬼の勢いに負けず劣らず、一生懸命鬼退治しておりました。さすがの鬼も皆様の豆を投げる勢いにびっくりして倒れていたので今年はとてもいい年になりそうです。

今回は利用者さんからのリクエストがあり、たこ焼きパーティーをしました。焼いているのを見た瞬間「私にも頂戴」と、とてもうれしそうな表情でした。小さな体で6個をあっという間に食したK様には職員もびっくりです。まだ欲しいような眼をしていましたがさすがに止めさせていただきました。他の方も職員もたこ焼きを焼く匂いにつられて来て誰もが「おいしいおいしい」と食べて下さいました。今回、たこ焼きを焼いた職員は「たこ焼き屋さんやろうかな」なんてぼそつと言っていたので定期的なたこ焼きの出店が来ることでしょうか。

珍しく雪が積もった2月10日。皆さんはどう過ごされましたか?密着特養では洗面器にやっと入るくらいの雪だるまを作りました。意外と利用者さんから好評で溶けない様にと外に飾りましたが夕方の雨で溶けてしまいました。残念です。子供の頃は雪が降ると大はしゃぎして外であそんでいましたが今では数分が限界のようです。そんな中、子供の様にはしゃいで謎の造形物を作っているベトナムの研修生にはほっこりしました。年齢はほぼ変わらないのにこの差は身にしみますね。ちなみに作っていたのは『木』だそうです。

寒暖定まらぬ時期ですので皆様ご自愛ください。

## 【ご報告】ピンクシャツデーへのご協力ありがとうございました。



2023年2月22日はピンクシャツを着たり、ピンクのものを身につけることによって、いじめや差別を少しでもこの世界から無くす運動「ピンクシャツデー」を行いました。とちぎYMCAでは1日限りではなく、この日をきっかけにいじめや差別を自分ごととしてとらえ、考えるきっかけとしたいと思い、多くの方の協力をいただきました。YMCA会員の皆様をはじめとし、さくらんぼ幼稚園、ようとう保育園、子どもの家で過ごすお子様とご家族の皆様にもご協力いただきました。また、栃木を代表するプロ野球チーム栃木ゴールデンブレーブスの選手の皆様、プロサイクリロードレースチーム宇都宮ブリツェンの選手の皆様、ラグビー選手のトゥキリロテ選手、栃木未来大使ピアニストの大野紘平様にもご協力いただき、いじめや差別について考えるきっかけを広げていただきました。皆様、本当にありがとうございました。

とちぎYMCAではその他に、これからの未来を担う若者たちと人の価値を共有していきたいと考え、とちぎYMCAに集うユースボランティアリーダー向けのピンクシャツデーリーダートレーニングを開催いたしました。今回は、「教えて!わたしとジェンダーの話」というテーマのもと、互いの考えや思いを共有できる有意義な時間となりました。以下は参加したリーダーの感想です。



ディスカッションの始めは、みんなに共感してもらえる伝え方を意識していましたが、他の参加者の話しを聞くうちに、この意識が変化しました。私にとってのモヤモヤやチクチクに対し、他者から「繊細だな」と思われることから、自分を守るため、無意識が働いていたことに気がきました。そして、相手の価値観や考えとズレがないよう慎重になりながらも、自分の意見を伝えることだけが、思いやりではないかもしれないと思い、「配慮」という言葉を疑ってみることにしました。「配慮」とは少しでも心に引っかかるコトが現れた時に、一旦立ち止まれる心のゆとりだと私は考えます。また、今回のリーダートレーニングを通して今後は、私が思っている「当たり前」について再度考え直したり、相手に自分の思いを伝えたりする一歩踏み出す勇気が必要だと感じました。そして、人それぞれの捉え方があるコトについて、私の考えを相手に伝えることにチャレンジして良かったと心から思いました。このような貴重な時を皆様と共有出来たことを糧に、これからも「わたしとジェンダー」について考え続けていきたいです。

玉川大学4年 牧野 友香 (ムーン)



話し合いを通して、学校の制度やメディアでの取り上げ方、社会の常識のようになってしまっていることなど、身近なところに性に関する「もやもや」はたくさんあることに気づきました。また、それらを無意識のうちに受け入れ、自分にとっての「当たり前」が形づくられてしまっていることにも驚きました。こうした「無意識のバイアス」は、凶器と化すこともあると思います。何気なく放った言葉で誰かが傷つき、しかもそれが自覚なしに起こってしまうというのが何よりも恐ろしいことです。皆が生きづらさを感じることなく生きられる社会を築くためにできることを考えました。今の社会では「多様性を認めよう」といった言葉をよく耳にしますが、自分と異なる他者に対し考えを巡らす前に多様性という言葉で片付けられてしまうことがあるように感じます。大切なのはその先の、同じ人間として相手を知ろうとすること、自分の物差しで人や物事を測らないことではないでしょうか。

そして、今回得た学びを生かすために、私たちは積極的に発信していく必要があると思います。家族や友だちと「こんなことをしたんだよ」と話してみる、ジェンダーについて一緒に考えてみる、こうした小さな一歩がより良い社会を創ることにつながると考えます。私は今後も、ジェンダーを始めとして、一人ひとりが自分らしく振る舞える社会の実現を目指し、アクションを起こしていきたいと思っています。

宇都宮東高等学校2年 高木 雅帆 (あんぱん)



清水 武蔵 投手



堀越 歩夢 投手



齋藤 鳳人 投手



大宅 健介 投手



大野 紘平さん



トゥキリ ロテ選手



阿部 高之選手

## YMCA Future Engineer Tech Youth Camp

### ～社会課題(いじめ)×自然体験×テクノロジー～



2月11日(土・祝)～12日(日)の1泊2日、宇都宮市冒険活動センターにて「Tech Youth Camp」を実施しました。ピンクシャツデーにあわせていじめや差別のことを自分ごととして考え、テクノロジーを用いて動画の作成にチャレンジしました。また、焚き火や野外炊飯など自然体験活動も行いました。キャンプを通して、幸せとは何か、自分自身が生きる意味とは何かなど、様々なことに向き合って考えることも行い、ユース世代を対象にしたキャンプならではの爽やかな時間を過ごすことが出来ました。

#### <キャンパーの感想>

今回のキャンプでは「しあわせ」について考え、ジェンダーフリーやクレドについて学び、リーダーやお兄さんと話し合いました。そして、まずは「ピンクシャツデー」をみんなに知ってもらうために呼びかけることが重要だと思い、動画を作成しました。今日は2月最終水曜日。みんなが多様性をみとめ合い自分らしく生きていけたらなと思ひ、ぼくはピンク色のTシャツを着て登校します。 渡邊 優輝 (小5)

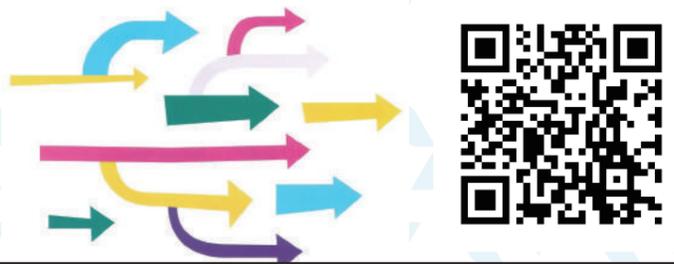
# クラウドファンディングに挑戦中!



目標金額 **500**万円 2023年4月14日(金)まで

とちぎYMCAはクラウドファンディングに挑戦中です!  
10年以上続いていたICEP (International Campers Exchange Program) プログラムは新型コロナウイルスの影響を受け、2020年から受け入れを休止していました。今年度は再開に向け準備を進めていますが、3年間中止してしていたため受け入れ場所の確保が難しい状態です。そこで、さくらんぼ幼稚園の隣の建物を改修し、毎年同じ場所での受け入れも可能な施設として再開のめどを立てたいと思っています。

また、将来は、海外にルーツを持つ家族や地域の方々との交流の居場所スペースにするなど使い方の夢は広がります。みなさまの温かいご寄付とご協力をお願いいたします。詳細はこちらをご覧ください。



## 海外の学生の受け入れ拠点を作り、 多文化共生の発信基地を作りたい!

※本プロジェクトは All or Nothing 方式のため、  
募集終了日までに目標金額に到達しなかった場合、いただいたご寄付は返金いたします。

## 月刊#(ハッシュタグ)



### 第22回 #なにそれなにそれ

とちぎYMCA総主事  
塩澤 達俊

#ウクライナ侵攻#ラモーンズ#HEY! HO! LET' S GO! #Blitzkrieg Bop

1年が経ってしまいました。ウクライナの`センソウ、のこです。  
ウクライナ侵攻が起きた1年前、国どうしの`センソウ、や、戦争の武器の`戦車、などは、もはや時代遅れの産物ということになっていました。

ところが、兵器や兵士の`数、でロシアに優位に立ってないウクライナにとって勝利の切り札は欧米諸国の`戦車、なんだそうで、事実、この2月のアメリカ大統領によるウクライナへの`電撃訪問、では、`揺るぎない支持、として弾薬や対戦車システムなど5億ドル(約670億円)の支援がウクライナ大統領に約束されました!

国際社会もこれをはずみに各国からドイツのレオパルト2戦車やアメリカのM1エイブラムス戦車が続々とウクライナに提供されようとしています。

ところで、今回のアメリカ大統領のウクライナ訪問は`surprise visit、`電撃訪問、と表



現されましたが、もともと`電撃、という言葉は第二次大戦中にナチスが行った作戦(ドイツ語 Blitzkrieg)の訳で、稲妻のように素早く強力な不意打ちを与える攻撃に名付けられた名前ですが、それでいて`チョット卑怯なニュアンスもある言葉ですね。



わたしたちにとっての`電撃、は、おなじ`電撃、でも、1976年にアメリカの伝説的パンクロックバンド Ramones (ラモーンズ) が放ったゴキゲンなシングル・ナンバー『Blitzkrieg Bop: 電撃バップ』(ベイ・シティ・ローラーズの`サタデー・ナイト、とローリング・ストーンズの`ウォーキング・ザ・ドッグ、)にインスパイアされた曲)のような疾走感と、ポジ

ティブな闘志にあふれた、平和への Surprise・電撃作戦でありたいものです。一日も早く、平和な国際社会が戻りますように!  
HEY! HO! LET' S GO!! (ヘイ!ホー!レッツ・ゴー!)

## トルコ・シリア大地震緊急支援募金



募金期間 2023年2月13日(月)~3月31日(金)

トルコ南東部で発生した大規模な地震では隣接するシリアと合わせて3万人以上の死亡が確認され、被災地では厳しい寒さの中、懸命の救助活動が続いています。とちぎYMCAでも募金を集め、支援を必要としている方々に寄り添うことができればと思っております。しかしながらトルコ・シリアにはYMCAがないことから現在、世界YMCA同盟が支援の方法を模索中のため、YMCAとしてはまだ活動をスタートしておりません。そのため、集まった募金はとちぎYMCAを通してAAR JAPAN【難民を助ける会】へ寄付させていただきます。後日YMCAで募金がスタートしましたら、いただいた募金はYMCAとAAR JAPANで折半いたします。

【寄付方法】

■各YMCAにて ■クレジットカードで

■郵便振替

名称: 公益財団法人とちぎYMCA募金口

口座番号: 00340-8-40685

\*通信欄に`トルコ地震募金、と記載

AAR JAPAN【難民を助ける会】とは・・・

1979年にインドシナ難民支援を目的に日本で発足されて以来、活動地域や分野を広げながら、65以上の国・地域で支援を展開され、現在は世界16カ国で活動しています。以前よりトルコにてシリア難民支援活動もしており、現在はすでに現地にて緊急支援活動を行っています。



↑こちらから